

中心市街地活性化基本計画のフォローアップ報告（詳細は資料9-2参照）

◆ 各指標の H23.3 末現在での数値等

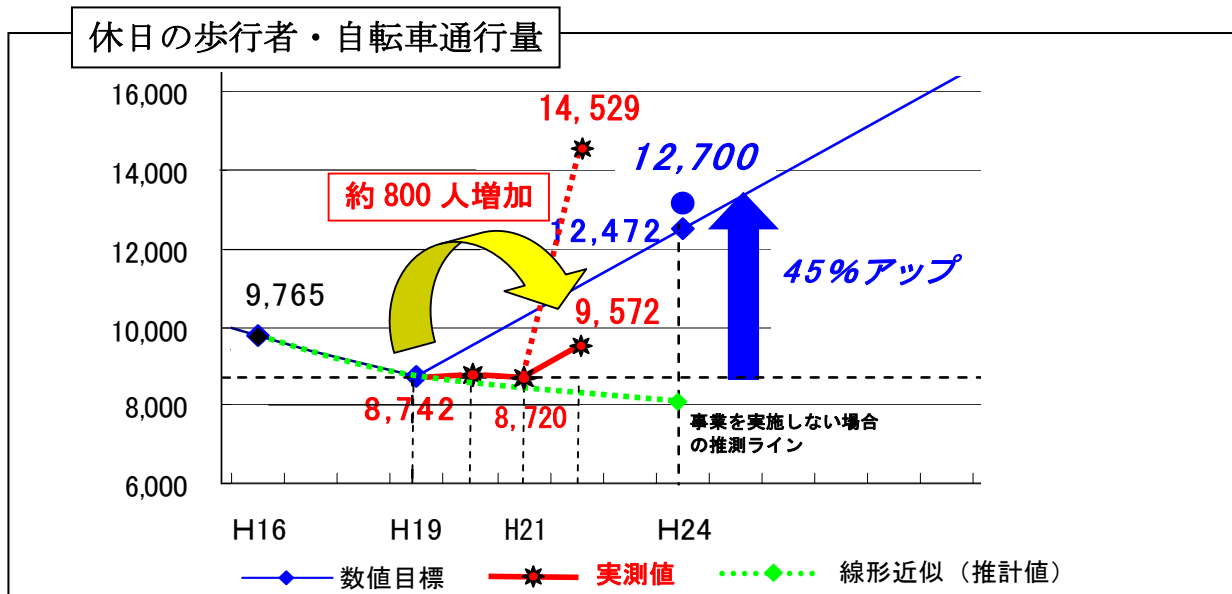
目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	今回の見通し
駅・港を結ぶ動線リニューアルによるにぎわいの創出	休日の歩行者・自転車通行量	8,742 人 (H19)	12,700 人 (H24)	14,529 人 ※平日 9,572 人 (H22)	③
琵琶湖湖岸・港における集客・交流機能の強化	琵琶湖観光客入込数	1,338 千人 (H19)	1,600 千人 (H24)	1,483 千人 (H21)	①

※ 休日の歩行者・自転車通行量の最新値は、「大津ジャズフェスティバル」の開催により、数値大きくなっているものと考えられる。通常日の通行量としては、平日に計測された9,572人が妥当であると思われる。
 ※ 琵琶湖観光客入込数は調査月（4月）の関係上、平成21年度数値での報告となる。

見通しに関する国の判断基準

- ① 取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ② 取組の進捗状況は概ね予定通りだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③ 取組の進捗状況は予定通りではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④ 取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ⑤ 取組が実施されていないため、今回は評価対象外。

◆ 各指標の達成状況分析

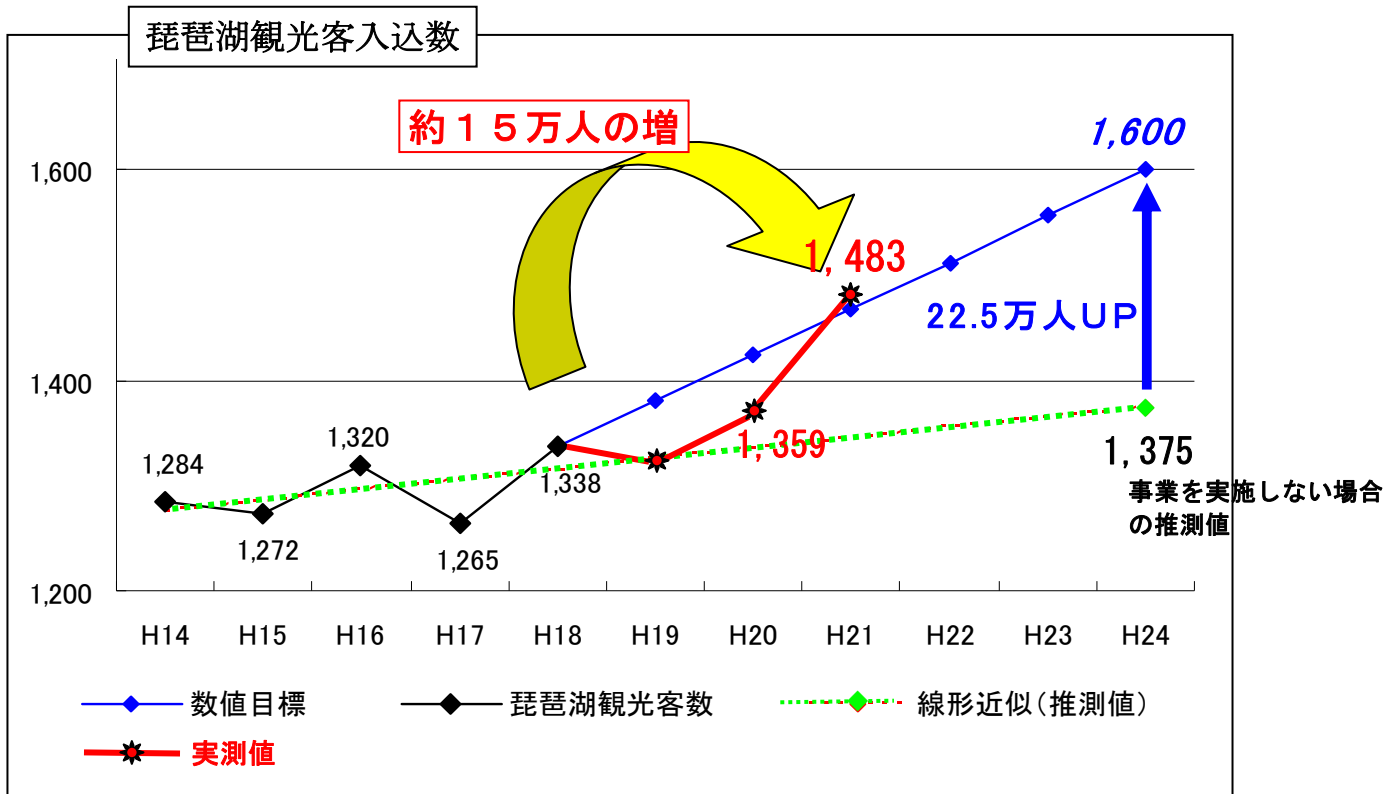


■ 「増加」の理由としては

「旧大津公会堂」や「湖（うみ）の駅」のオープンにより歩行者・自転車通行量が増えた。また、「食灯祭」、「秋の音楽祭」等ソフト事業により、拠点施設の周知を図れたことも集客数の増加に繋がったものと考えられる。

■ 目標達成への見通し

今後、旧大津公会堂などの拠点に加え、まちなかの歴史的資源を活かした事業の進捗により集客増が予想されること、また進捗が遅れている事業は調整を図り実施に向け引き続き努力していくことにより、目標達成は可能であると見込んでいる。



■ 「15万人の増」の理由としては

- ・「なぎさのテラス」の集客数(約12万5千人)が計上された。
- ・「食灯祭」等のソフト事業により琵琶湖観光客が増加した。

■ 目標達成への見通し

今後は、「湖(うみ)の駅(※計測時期の関係から来年度調査に計上)」の集客による観光客が増加すること、また各拠点施設の集客増、ソフト事業との相乗的な効果も期待できることから目標達成は可能であると見込んでいる。

◆ 今後の対策

- ・ 3つ拠点(なぎさのテラス、湖の駅、旧大津公会堂)において創出される賑わいを恒常的なものとするために、ソフト事業の実施や情報発信などの施策を継続実施する。
- ・ まちなかで既に実施されている町家等の修景整備事業などの継続とともに新規事業を実施し、まちなかの機運と魅力を高め、湖岸のにぎわいを波及させる。
- ・ 活性化協議会等関係者で調整を図り、未実施事業の早期実施及び事業を円滑に推進していく。